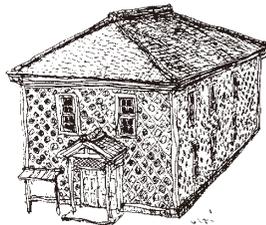


## 演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のスピーチ、デベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、明治8年に開館した日本最初の演説会堂です。

●常任理事（教育・研究担当）

あおやまとうじろう  
青山藤詞郎

# 教育と研究の連携による人材育成

高等教育機関としての大学・大学院の主な使命は、学生諸君に高度な教育を施すことにより、将来を担う優秀な人材を育成し、世に送り出し社会貢献を果たすことにあります。教育プログラムは、教室で受ける講義、学生実験・実技などによって構成されています。また主に3、4年生や大学院生が研究室・ゼミに所属し指導教員のもとで行う研究活動があり、その内容は学部・研究科によって異なり多岐にわたっています。研究室やゼミなどにおける研究活動の成果については、これらを学会発表の場や様々なメディアをとおして社会へ発信することにより、豊かな社会の発展のために、大きな貢献を果たしています。ここで、教員が自ら行う研究をとおして得た知見が講義に生かされることはもとより、研究室やゼミなどにおいて教員と学生が協働して行う研究活動により、優れた人材が育ちます。まさに「教育」と「研究」の2つの活動は、別々のものではなく、人材育成における車の両輪の機能を果たしていると言えましょう。義

塾が持つ様々なリソースを、教育と研究活動の両面に、選択的かつ集中して活用し、必要な改革を行いながら、より高度な人材育成の達成に向かって如何に駒を進めるかが重要な課題です。慶應義塾が世界トップレベルの教育研究機関として世に貢献するために、新たな国際教育プログラムの開発や国際的な研究連携の推進により、優秀な留学生の確保、塾生の国外留学や国外研究活動の活性化、教員を主体とした国際共同研究の推進などが重要な課題となっております。これらの活動を支援するためのソフトとハードの両面からの改革が望まれ、その実現のためには、新たな制度や規程を設けるのみでは実効がありません。関係する教育・研究現場の教職員や学生諸君の意見にしっかりと耳を傾け、協調することによって可能なことから実行する必要があるとあります。半学半教の精神のもと、塾生と教職員が互いに自らを高めあうことにより、未来の慶應義塾を育ててまいりたいと思います。